

## 高校生の進路決定における 意思決定スタイルと後悔

上市秀雄  
 筑波大学大学院システム情報工学研究科  
 Email: ueichi@sk.tsukuba.ac.jp

## 意思決定スタイル

- 意思決定時の思考の傾向性の個人差
  - Janis & Mann(1977)
    - 熟慮(vigilance)
      - 十分検討し、情報を満遍なく収集する
    - 短慮(hypervigilance)
      - 十分な時間を使わず、最も不快感を与えないと思われる選択肢を選ぶ
  - 仮想場面における受験校決定と意思決定スタイルの関係
    - 上市・楠見(2004,心研)
      - 分析的スタイル 合格可能性が低いと受験しない
      - 直観的スタイル 合格可能性が低くても受験する

つまり、意思決定スタイル(分析的-直観的)が進路決定に影響を及ぼす

## 後悔とは

- 自分が行動を決定し、悪い結果が起きた場合、(Zeelenberg, van Dijk, & Manstead, 1998)
- 他の行動を選択したほうが良い結果が得られたと感じた場合に生じる感情 (e.g., Zeelenberg, van Dijk, van der Pligt, Manstead, van Empelen, & Reinderman, 1998; Tsiros, 1998)

↓

進路決定における後悔とは、  
進路選択の結果が自分の予想や期待と  
悪い意味で異なる場合に生じる感情

## 自由記述による後悔研究 (Gilovich & Medvec, 1995)

- 行動-非行動が後悔の時間的变化に影響
  - 行動したために生じた後悔(結婚、喫煙など)
    - 合理化しやすい: 時間経過とともに後悔が減少
  - 非行動のために生じた後悔(大学中退、勉強せず)
    - 合理化しにくい: 時間経過とともに後悔が増大

### 進路決定の後悔に関するシナリオ実験 (上市・楠見, 2004)

● 行動-非行動が後悔および後悔対処に影響

第一志望校を受験して浪人した場合(行動)	後悔は小さい 後悔を合理化しやすい
第一志望校を受験せずに第二志望校に進学した場合(非行動)	後悔は大きい 後悔を合理化しにくい

## 先行研究の問題点

- 回想およびシナリオ実験のため、各個人が現在経験している感情(後悔, 満足, 失望)および後悔対処法が不明

目的

進学先決定時の意思決定スタイルおよび進学先が進学先で感じている感情(後悔, 満足, 失望)の時間的变化に及ぼす影響の検討

後悔を感じた場合の後悔対処の検討

- 被験者 S県立高校3年生385名(男196・女187・不明2)
- 調査時期 2003年11月に質問紙を配布回収  
卒業後2004年8月に追跡調査  
両方の調査に参加した被験者164名(男68・女96)

## 質問項目

- 意思決定スタイル(5段階評定)
  - 今通っている学校に入学することは熟慮して決定したか?
- 現在の進学先(三者択一)
  - 第一志望校に進学した
  - 第一志望校以外に進学した(第二志望校進学者)
  - 浪人生
- 感情(5段階評定)
  - 進学先に入学した直後、どれくらい後悔(満足, 失望)を感じていたか?
  - 今現在、どれくらい後悔(満足, 失望)を感じているか?

**後悔対処法 (5段階評定)** 1:あてはまらない - 5:あてはまる

- **合理化**
  - 進学者: 今通っている学校に入学したことは今後の人生で有益であると思う。
  - 浪人生: 今通っている学校に入学したことは今後の人生で有益であると思う。
- **行動の改善 (今度は失敗しないように努力する)**
  - 進学者: 第一志望に就職できるように勉強に専念する
  - 浪人生: 第一志望に合格できるように勉強に専念する
- **行動選択の変更 (次は行動しよう (またはしない))**
  - 進学者: 資格試験や公務員試験などを受けるときは合格可能性が低ければ受験しない
  - 浪人生: 第一志望でも合格可能性が低いと受験しない

**結果**  
進学先, 意思決定スタイルが後悔の時間的変化に及ぼす影響

Legend: 直観・第一(22), 直観・第二(23), 直観・浪人(19), 熟慮・第一(32), 熟慮・第二(38), 熟慮・浪人(8)

統計:  $N = 142$   
 時間 × スタイルの交互作用  $F(1, 136) = 7.166, p = .008$   
 時間 × 進学先の交互作用  $F(2, 136) = 15.191, p = .000$

**熟慮スタイルは, 時間経過とともに後悔が減少  
浪人生は, 時間経過とともに後悔が減少**

進学先, 意思決定スタイルが満足感の時間的変化に及ぼす影響

Legend: 直観・第一(22), 直観・第二(23), 直観・浪人(19), 熟慮・第一(32), 熟慮・第二(38), 熟慮・浪人(8)

統計:  $N = 142$   
 時間 × 進学先の交互作用  $F(2, 136) = 16.672, p = .000$

**浪人生は, 時間経過とともに満足感が増加**

進学先, 意思決定スタイルが失望感の時間的変化に及ぼす影響

Legend: 直観・第一(22), 直観・第二(23), 直観・浪人(19), 熟慮・第一(32), 熟慮・第二(38), 熟慮・浪人(8)

統計:  $N = 142$   
 時間 × スタイルの交互作用  $F(1, 135) = 10.765, p = .001$   
 時間 × 進学先の交互作用  $F(2, 135) = 10.381, p = .000$

**熟慮スタイルは, 時間経過とともに失望感が減少  
浪人生は, 時間経過とともに失望感が減少**

**結果**  
進学先, 意思決定スタイルが合理化の時間的変化に及ぼす影響 (後悔をした人のみ対象)

Legend: 直観・第一(7), 直観・第二(10), 直観・浪人(11), 熟慮・第一(9), 熟慮・第二(23), 熟慮・浪人(7)

統計:  $N = 67$   
 スタイルの主効果  $F(1, 61) = 6.010, p = .017$

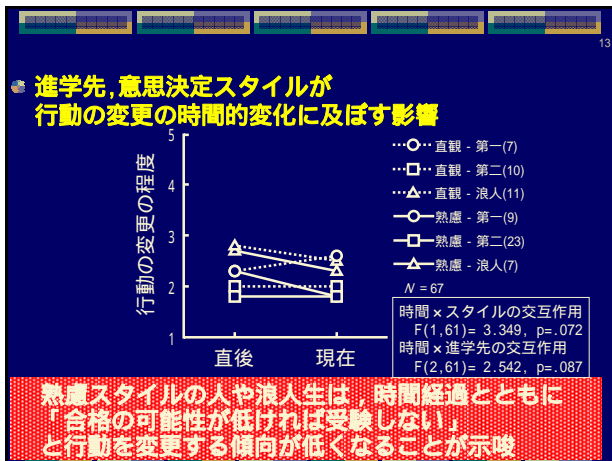
**熟慮スタイルは, 直観スタイルよりも, 「ここに入学したことは, 今後の人生で有益だ」**

進学先, 意思決定スタイルが行動の改善の時間的変化に及ぼす影響

Legend: 直観・第一(7), 直観・第二(10), 直観・浪人(11), 熟慮・第一(9), 熟慮・第二(23), 熟慮・浪人(7)

統計:  $N = 67$   
 スタイルの主効果  $F(1, 61) = 4.250, p = .044$   
 進学先的主効果  $F(1, 61) = 6.309, p = .003$

**熟慮スタイルの人や浪人生は, 「何かの折には第一志望に進めるように努力する」**



### まとめ

- 意思決定スタイルは、後悔や失望感などのネガティブな感情に影響
  - 熟慮スタイルの人は、進学先に対して後悔や失望感を感じても時間経過とともに減少する。
  - 満足感は、意思決定スタイルとそれほど関係しない
- 意思決定スタイルは、合理化,行動改善,(行動変更)などの後悔対処に影響
  - 熟慮スタイルの人は、感じた後悔に対して対処しやすい

↓

後悔や失望などのネガティブな感情を避けるためや、感じた後悔にうまく対処するには、熟慮して進路決定する必要がある

### 今後の課題

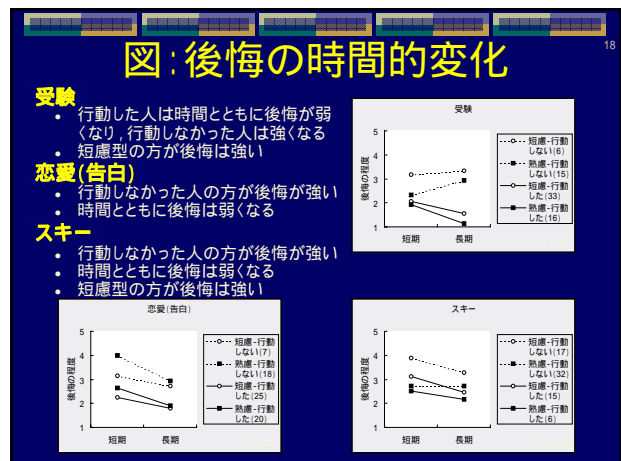
- 進学先確定直後の感情等は回想で測定しているため、感情の強さや後悔対処が変化している可能性あり
  - 進学先確定直後は後悔していても、4ヶ月もたつと、当時の気持ちも合理化されて思い出されてる可能性あり
- 意思決定後の意思決定スタイルによっては、満足な結果(第一志望校入学)であっても、「もっと勉強しておけば、もっとよい大学へ進学できたかも」と後悔する場合もある。
  - 例1: 良い結果が得られたとしても Maximizer (常に最良の選択を追求する人) は Satisficer (満足できる選択肢を選ぶ人) よりいつまでも後悔する可能性がある (Schwartz, 2004)
  - 例2: 選択後比較タイプ 後悔大, 満足小(上市・高橋, 2005)

高校3年時,進路確定時,卒業後に各要因を測定し,時間経過による変化,スタイルによる差異を検討

### 参考文献

- Gilovich, T., & Medvec, V. H. 1995. The experience of regret: What, when, and why. *Psychological Review*, 102, 379-395.
- Gilovich, T., Medvec, V. H., & Kahneman, D. 1998. Varieties of regret: A debate and partial resolution. *Psychological Review*, 105, 602-605.
- ラドフォード 1991 意志決定行為, ヒューマンティワイ
- Schwartz 2004 The paradox of choice, Ecco Press.
- Sternberg 1997 Thinking style, Cambridge University Press
- 上市秀雄・楠見孝 2004 後悔の時間的変化と対処方法 心理学研究, 79(6), 487-495.
- Zeelenberg, M., van Dijk, W. W., van der Pligt, J., Manstead, A. S. R., van Empelen, P., & Reinderman, D. 1998. Emotional reactions to the outcomes of decision: The role of counterfactual thought in the experience of regret and disappointment. *Organizational Behavior and Human Decision Processes*, 75, 117-141.

### 参考資料



19

● **意思決定スタイル，進路決定方略，効用が受験校決定に及ぼす影響を明確化**  
 (上市・栗山・齋藤・梶見，2001) ● **各要因間全体の関連性**

意思決定スタイル → 進路決定方略 → 各受験校に対する効用 → 受験校決定

- 分析スタイルの人ほど，属性効用型や絞り込み型方略をとる傾向がある
- 属性効用型や絞り込み型方略の人ほど安全校に対して期待や効用が高いため安全校を受験する。

20

● **自由記述による研究** (Gilovich & Medvec, 1995)

- **行動-非行動が後悔の時間的变化に影響**
  - 行動したために生じた後悔
    - 合理化しやすい ⇒ 時間経過とともに後悔が減少
  - 行動しなかったために生じた後悔
    - 合理化しにくい ⇒ 時間経過とともに後悔が増大

● **質問紙法を用いたシナリオ実験** (上市・梶見，2000)

- **行動-非行動が後悔および後悔対処に影響**

第一志望校を受験して浪人した場合(行動) → 後悔は小さい  
後悔を合理化しやすい

第一志望校を受験せずに第二志望校に進学した場合(非行動) → 後悔は大きい  
後悔を合理化しにくい

